A decorative graphic on the left side of the page, featuring a vertical stack of squares in various shades of blue and purple, some overlapping, creating a stepped effect.

2010年3月期 決算概要

2010年6月

稲畑産業株式会社

2010年3月期 決算総括

<ポイント>

- ❑ 売上高は、主力の情報電子や合成樹脂事業において一部に回復基調となったものの、対前期比 7.2%減の4,107億円
- ❑ 営業利益は、利益率の改善、経費削減等により、全セグメントで増益となり、対前期比 54.1%増の55億円
- ❑ 経常利益は、持分法による投資損失の増加等により、対前期比 27.9%増の48億円
- ❑ 純利益は、前期での多額の投資有価証券売却益が今期はなくなったこと等により、対前期比 18.5%減の17億円

連結	2009年 3月期	2010年 3月期	前期比
売上高	4,427億円	4,107億円	△7.2%
営業利益	35億円	55億円	54.1%
経常利益	38億円	48億円	27.9%
当期純利益	21億円	17億円	△18.5%
1株当り 当期純利益	33円22銭	27円08銭	

2010年3月期 B/S

①景気底入れに伴う売上債権及び仕入債務等の増加

②借入金返済による有利子負債の減少

単位:百万円

(資産の部)	09/03末	10/03末	増減	(負債／純資産の部)	09/03末	10/03末	増減
現金及び預金	11,247	5,463	△5,783	支払手形及び買掛金	66,811	84,400	17,588
受取手形及び売掛金	104,197	125,638	21,441	短期借入金	49,499	41,537	△7,961
棚卸資産	27,477	24,593	△2,883	その他流動負債	9,088	6,165	△2,923
その他流動資産	10,746	7,135	△3,611	長期借入金	14,774	17,226	2,452
有形固定資産	11,765	10,787	△978	その他固定負債	11,504	12,170	665
無形固定資産	4,724	7,880	3,155	株主資本	55,971	56,841	869
投資有価証券	38,729	41,898	3,168	評価・換算差額等	6,741	10,964	4,222
その他固定資産	6,390	6,567	177	その他純資産	886	658	△228
資産合計	215,279	229,964	14,685	負債純資産合計	215,279	229,964	14,685

2010年3月期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前期比 +5.4% 91億円増

- ✓ 液晶関連は、偏光板及びその原料を中心に好調に推移
- ✓ プリンター・複写機関連は、年度後半にかけて回復基調
- ✓ 半導体関連は、携帯電話、自動車向けなどで年度後半に回復傾向
- ✓ 装置関連は、真空装置の販売が大きく伸長

化学品 ⇒ 対前期比 △12.7% 84億円減

- ✓ 樹脂原料の販売が大きく減少し、樹脂添加剤やアラミド繊維なども減少
- ✓ 塗料・インキ・接着剤の原料や製紙薬剤は販売が低調
- ✓ 医薬・ジェネリック医薬品向け中間体は堅調に推移
- ✓ 生活関連商品では、新型インフルエンザ関連商品等が寄与し好調

合成樹脂 ⇒ 対前期比 △12.3% 196億円減

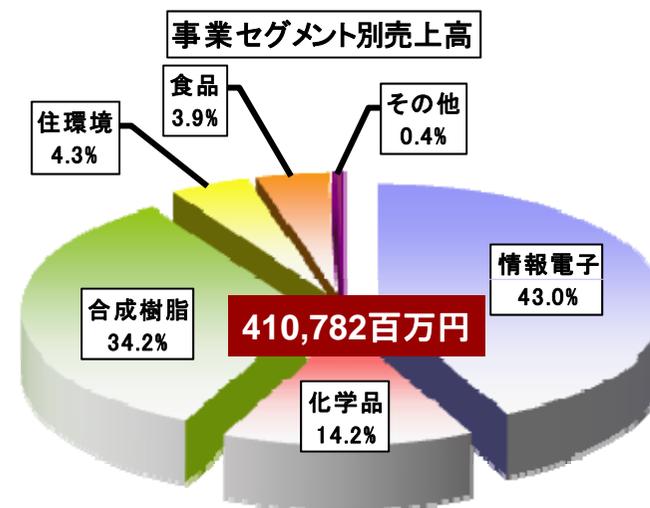
- ✓ 海外での需要増に支えられ、年度後半にかけて回復基調
- ✓ 高機能樹脂は、自動車、コネクタ関連を中心に、年度後半にかけて伸長
- ✓ 汎用樹脂は販売量は回復したものの、価格は依然低い水準のまま推移
- ✓ フィルム・シート関連は、売上、利益ともに低調に推移

住環境 ⇒ 対前期比 △20.9% 46億円減

- ✓ 住宅関連資材の販売は低迷したものの、床・階段材などは年度後半に進捗
- ✓ 住宅水廻り機器関連の販売は、新規商材への取組みにより微増
- ✓ 木材・建材関連では在庫調整が続き、販売減少

食品 ⇒ 対前期比 △31.7% 75億円減

- ✓ 不況や価格下落の影響により厳しい状況
- ✓ 水産物は、低価格の回転寿司向け販売は比較的堅調
- ✓ 農産物は主力の冷凍ブルーベリーの価格の大幅下落により、売上減少
- ✓ 畜産事業からは撤退(51億円の売上減)



2010年3月期		
	売上高(百万円)	前期比(%)
情報電子	176,774	5.4
化学品	58,214	△12.7
合成樹脂	140,376	△12.3
住環境	17,552	△20.9
食品	16,240	△31.7
その他	1,624	△32.5
合計	410,782	△7.2

2010年3月期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前期比 +108.7% 12億円増

- ✓ 主力の液晶関連を中心に伸長したことや、コスト削減効果も寄与したことから増加

化学品 ⇒ 対前期比 +164.5% 3億円増

- ✓ 当期にライフサイエンス関連が順調であったことに加え、前期にあった英国の硝化綿製造子会社における損失が今期はなくなったことから増加

合成樹脂 ⇒ 対前期比 +8.8% 1億円増

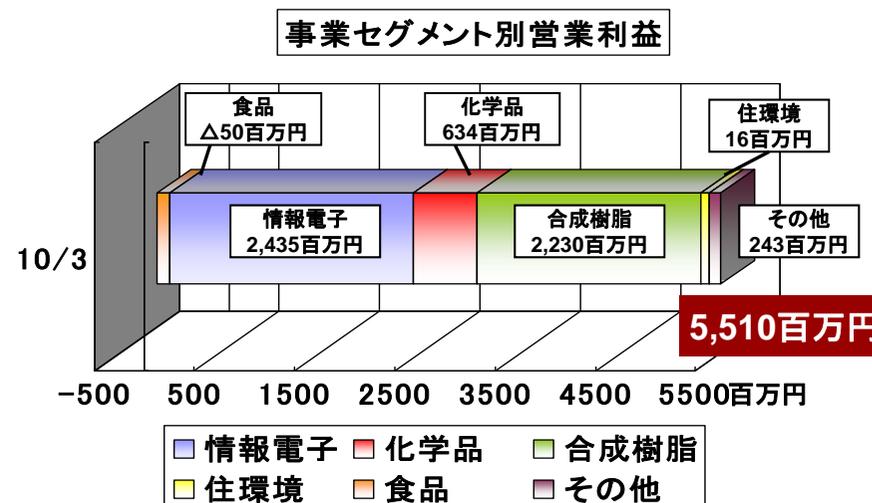
- ✓ 年度前半は需要低迷の影響を受け苦戦したものの、年度後半にかけての海外での需要増加、国内グループ会社が業績好調であったこと、及びコスト削減効果等により増加

住環境 ⇒ 対前期比 9千万円増

- ✓ 全体としては厳しい状況の中、利益率は向上したことに加え、経費削減効果も寄与

食品 ⇒ 対前期比 9千万円増

- ✓ 不況や価格下落の影響もあり、全体として厳しい状況が続いたものの、販売費が減少したことから赤字幅は減少
- ✓ 在庫処理の目途がついたことにより粗利率は改善



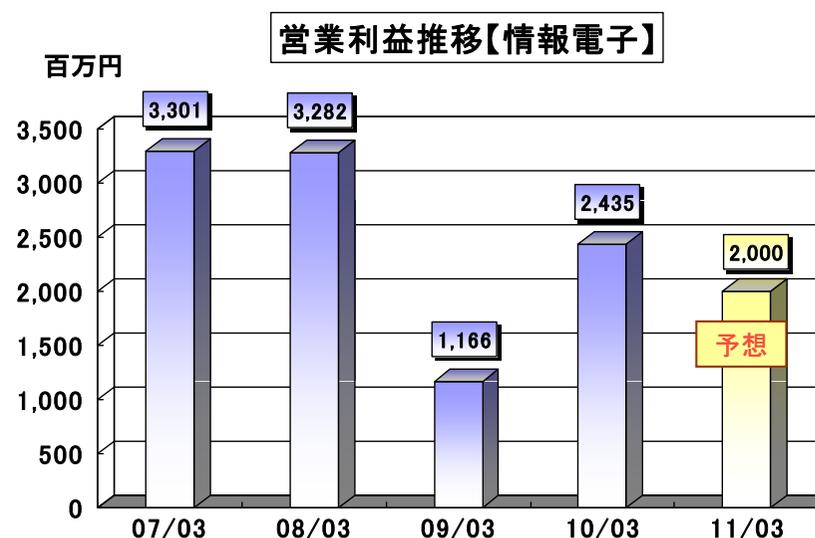
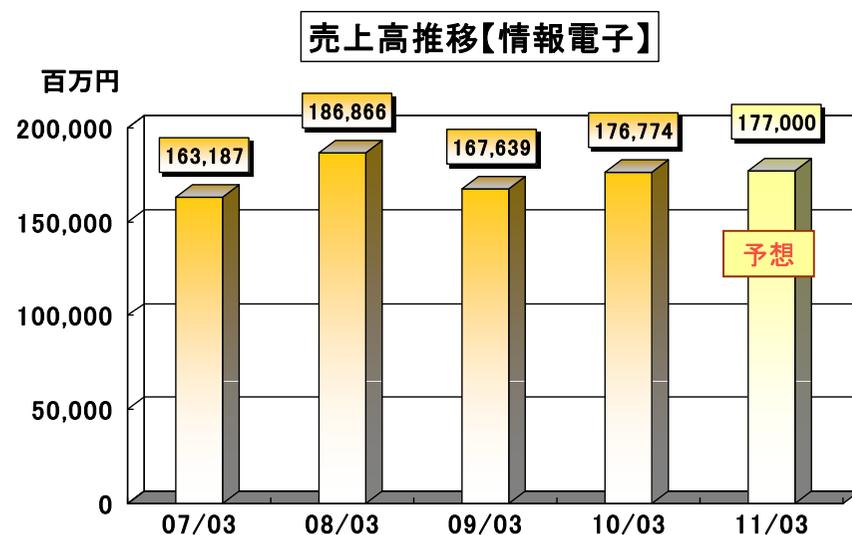
2010年3月期		
	営業利益(百万円)	前期比(%)
情報電子	2,435	108.7
化学品	634	164.5
合成樹脂	2,230	8.8
住環境	16	—
食品	Δ50	—
その他	243	Δ30.5
合計	5,510	54.1

※前期 住環境 Δ81 食品 Δ150

2010年3月期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前期比 +5.4% 91億円増加

- 各国の景気刺激策が奏功し液晶テレビ市場の大幅回復が続いたことから、主力の液晶関連を中心に好調に推移
- 液晶関連では、価格下落の影響はあったものの、偏光板及びその原料を中心に好調に推移
- 太陽電池関連は、規模は大きくないものの、新規商材の開拓への積極的な取組み
- 半導体関連は、パソコン、携帯電話、自動車分野向けなどで年度後半に回復傾向
- 装置関連は、中国を中心とした新興国の景気が回復してきたことから、FPD関連の大型設備投資が再開され、真空装置の販売が大きく伸長

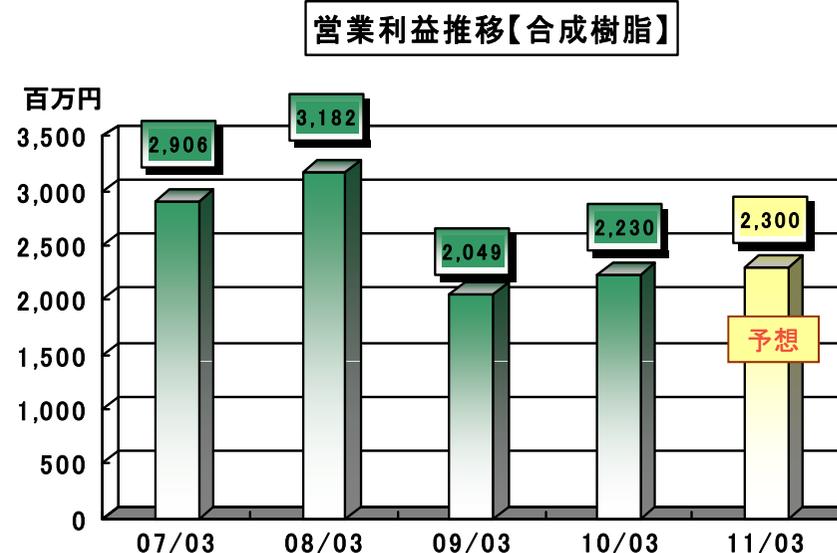
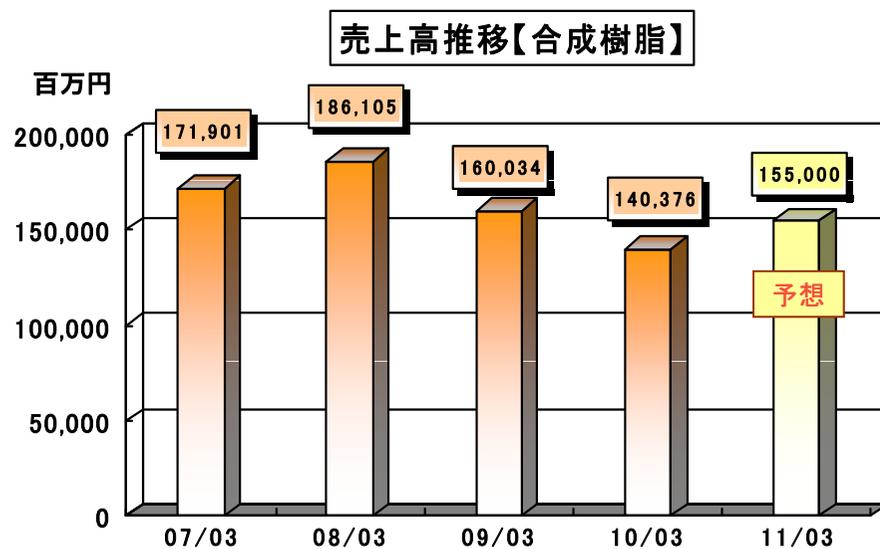


'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前期比 $\Delta 12.3\%$ 196億円減少

- 年度前半は需要低迷の影響を受け苦戦しましたが、年度後半にかけて海外向けを中心に販売量が回復
- 高機能樹脂は、落ち込んでいた自動車や電子・電気機器用コネクター関連を中心に年度後半にかけて伸長
- 輸出は、中国向けを筆頭に東南アジア向けも好調
- 汎用樹脂の販売は、年度末にかけて販売量は回復したものの、価格は依然低い水準のまま推移
- フィルム・シート関連は、ナフサ価格下落の影響で原料の販売価格が低迷したことにより、低調に推移
- 国内グループ会社の業績は好調に推移



'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2010年3月期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前期比 Δ12.8% 79億円減

- ✓ 年度後半に回復がみられたものの、通年では減少
- ✓ シンガポールではインド向けの樹脂など輸出関連が伸長したものの、対前期比では若干の減少
- ✓ タイは、合成樹脂関連は苦戦しましたが、化学品関連は微減
- ✓ インドネシアでは、自動車、オートバイ向け合成樹脂販売が堅調

北東アジア ⇒ 対前期比 +4.4% 31億円増

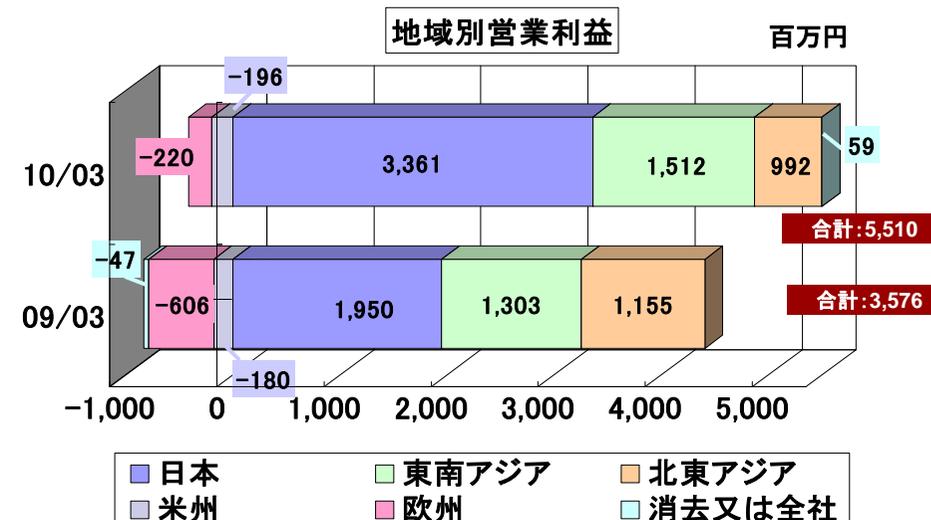
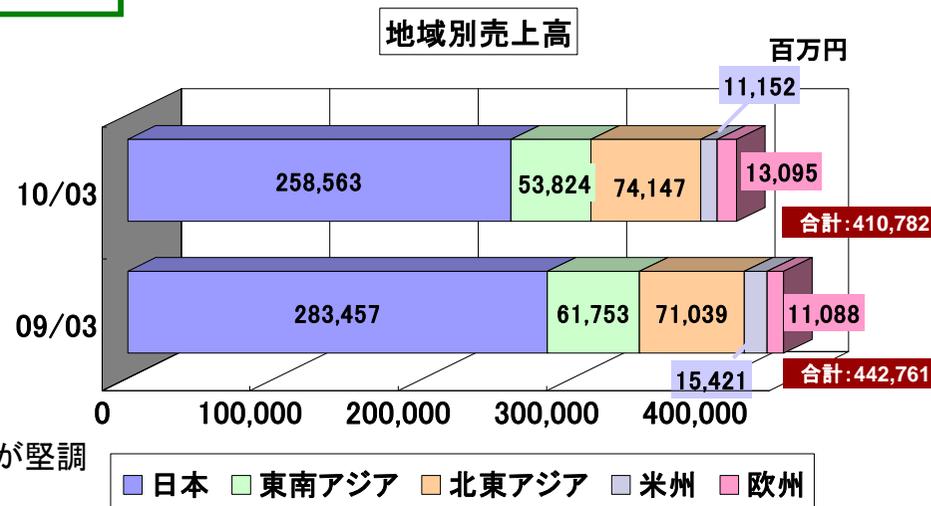
- ✓ 香港では中国政府の内需振興策により、液晶関連を中心に販売が堅調
- ✓ 台湾では液晶関連部材の売上が伸長
- ✓ 華東も中国国内関連が好調で液晶関連を中心に販売が順調
また、化学品関連の製造拠点が軌道に乗り始めました

米州 ⇒ 対前期比 Δ27.7% 42億円減

- ✓ グループ会社清算に伴うコスト負担が大きく、全体では引き続き厳しい状況
- ✓ 情報電子関連は複写機・プリンター業界への販売に回復傾向
- ✓ 食品関連では、フルーツの販売拡大に積極的な取り組み

欧州 ⇒ 対前期比 +18.1% 20億円増

- ✓ フランスのファインケミカル関連・医薬品関連は苦戦
- ✓ ドイツ・フランスを中心に展開している太陽電子・半導体関連は、年度後半に回復がみられたものの苦戦
- ✓ 液晶関連は、ポーランドでの液晶パネル材料の販売が伸長



2010年3月期 連結子会社概況

- NOBEL ENTERPRISES LIMITEDが清算手続き中により第2四半期末で連結の範囲から除外
- SIKグループを100%子会社化 ⇒ 海外合成樹脂ビジネスの更なる発展を目指す
- 稲畑工貿(大連保税區)有限公司が重要性の増加により連結子会社化

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	13	40	53
持分法適用関連会社	4	5	9
合計	17	45	62

■ 2011年3月期 連結業績予想

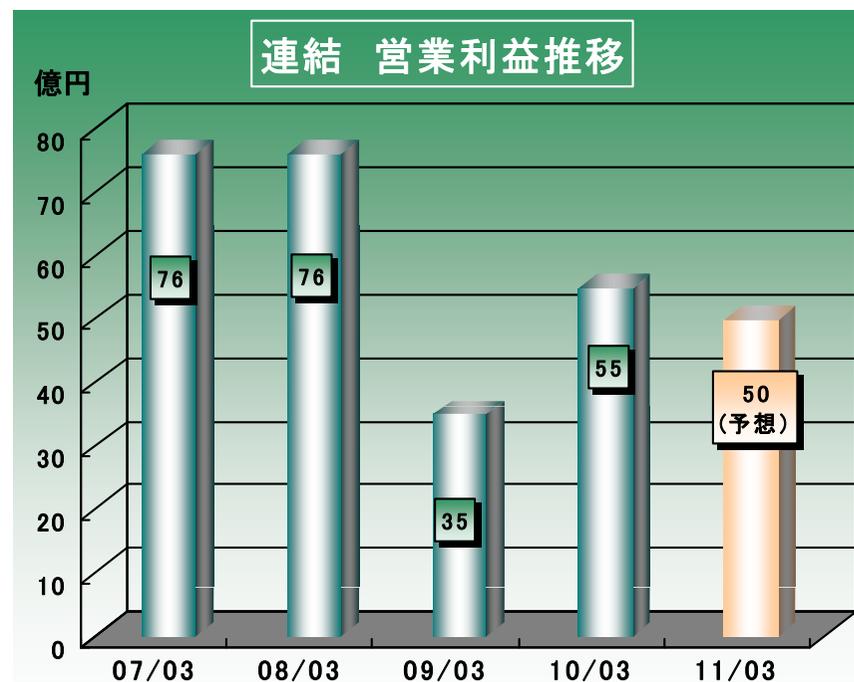
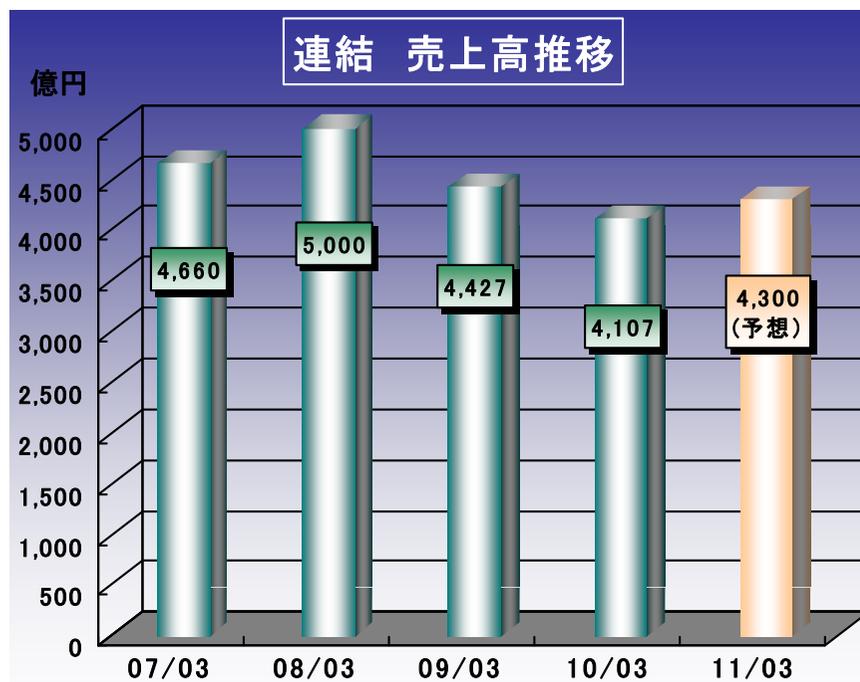
(単位:百万円)

	2011年3月期 (予想)	2010年3月期 (実績)	増 減	前期比
売上高	430,000	410,782	19,218	4.7%
営業利益	5,000	5,510	△ 510	△9.3%
経常利益	4,800	4,889	△ 89	△1.8%
当期純利益	4,200	1,762	2,438	138.4%
1株当たり 当期純利益 (円)	64.55	27.08	37.47	—

'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

■ 売上高と営業利益の推移と見通し(07年3月期～11年3月期)

- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

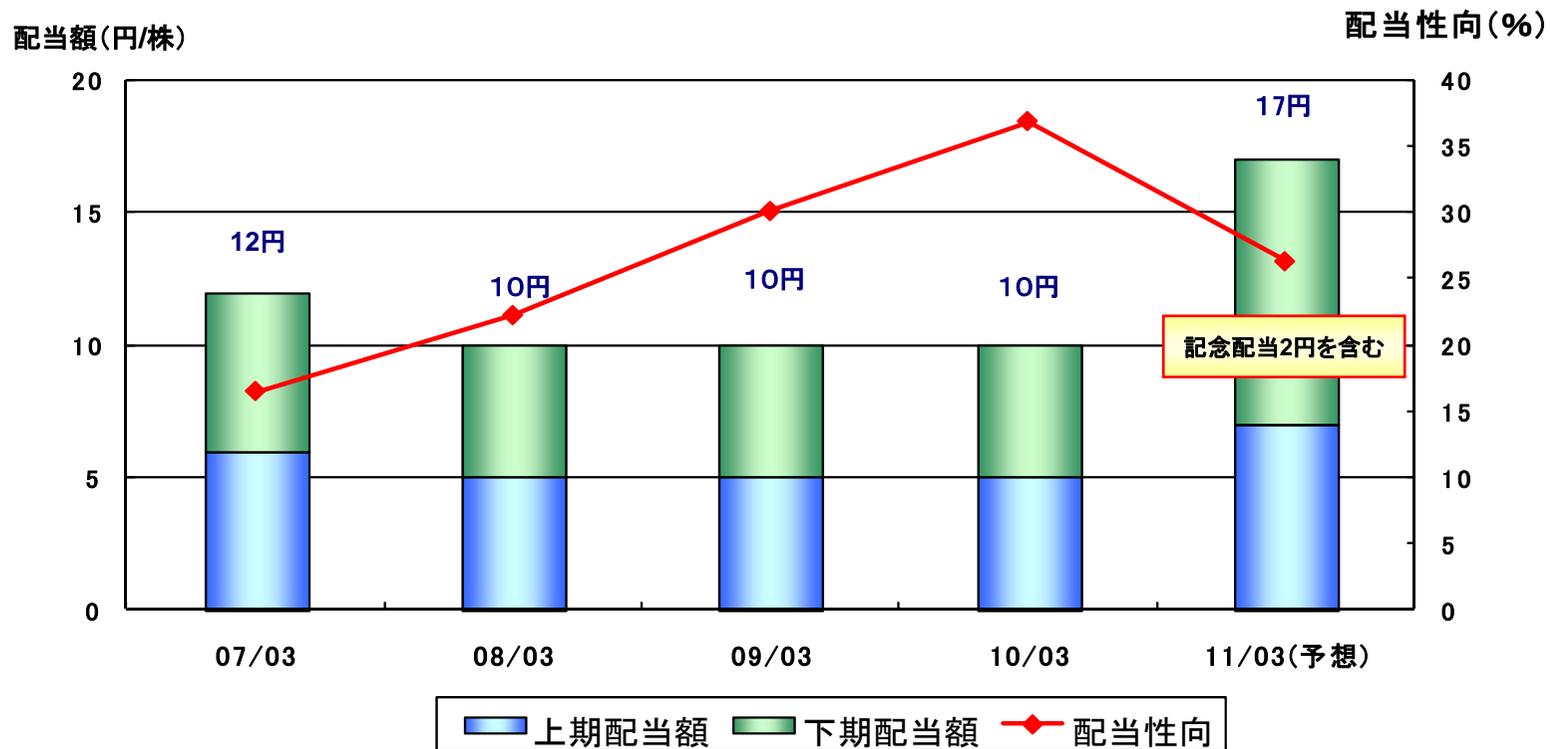
株主への還元

(基本方針)

- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の**20%~30%**程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限**年間10円**の配当金の維持に努める。

(2011年3月期)

- 連結業績における当期純利益が増益となることを予想していることから、普通配当を1株当たり15円(年間)とするとともに、創業120周年記念配当2円を加え、合計17円とする予定です。



今後の方針

- ▶ 有望なアライアンスの締結の促進と自社企画プロジェクトの拡充
- ▶ 引き続き国内外の連結経営を強化、収益力の向上、人材の育成に一層注力する。
- ▶ シナジー効果の実現を重点に置いた事業の再構築を推進
- ▶ 資金の効率化の更なる向上と財務体質の強化
- ▶ グループ会社を含む全社員で内部統制の推進に取り組むとともに内部統制システムの充実を図る